

社会福祉法人

中央有鄰学院

児童養護施設 ゆうりん 乳児院 ほだか ふれあいセンター おおだか 自立援助ホーム きょうわ ヘルパーステーション ゆうりん

中央有鄰学院 概要

設置・経営主体

社会福祉法人 中央有鄰学院

理事長 植田望 理事6名 監事2名

事業

児童養護施設 ゆうりん (定員 45名) 乳児院 ほだか (定員 15名) ふれあいセンターおおだか 自立援助ホーム きょうわ (大府市:定員 6名)

ヘルパーステーションゆうりん (昭和区)











沿革

明治33年12月 豊橋育児院と称し、豊橋市松葉無番地に設立。(児童保護を主体とする慈善救済の社会事業)

大正 10 年 6 月 事業を育児部・感化部に分離し女子感化部の院舎を新築し静 修女学院と称した。

大正 13 年 6 月 名称を豊橋有鄰財団と改称す。

昭和5年4月 男女教護院を分立する事になり知多郡大高町字北関山に院舎 を移築、静修学院と称し男子生徒を収容。

昭和8年3月 静修女学院を知多郡大高町字夜寒に移転する。

昭和 23 年 7 月 本財団を知多郡大高町字北関山に移転し、名称を中央有鄰学院と改称する。

昭和 27 年 1 月 児童福祉法の施行により児童養護施設となる。 児童収容定員 30 名。

昭和27年10月 定員50名に認可される。

10月3日社会福祉法人中央有鄰学院が認可される。

昭和30年1月 設立者、青山衝天氏83才の高齢をもって逝去。多年社会事業 功労により従六位勲五等瑞宝章に輝く。

昭和37年10月 院舎を知多郡大高町字洞之腰20-1に新築移転する。

昭和42年10月 幼児居室を鉄筋コンクリート建に増築する。

昭和47年12月 収容定員を63名に変更する。

昭和 56 年 3 月 創立 80 周年記念事業として本館を鉄筋コンクリート 3 階建 に増改築する。

平成 20 年 10 月 全国社会福祉協議会設立 100 周年記念・感謝の集いにて明治 時代創立の全国 40 団体の一員として特別表彰を受ける。

平成22年3月 全面改築により児童養護施設をゆうりんと改名し、乳児 院ほだか、ふれあいセンターおおだかを新たに併設する。

平成24年9月 大府市共和町に自立援助ホームきょうわを開所する。

平成26年4月 名古屋市昭和区にヘルパーステーションゆうりんを開設する。

5

中央有鄰学院について

社会福祉法人中央有鄰学院は、明治33年、慈善救済事業が基となり、豊橋育児院として設立されました。昭和23年に、児童福祉法の施行により児童養護施設となり、昭和37年には現在の敷地である名古屋市緑区に移転されました。

建て替え以前の旧舎は、移転した昭和37年から使用されており、これまで約1,000人以上の子ども達がこの施設から巣立っていきました。しかし、建て増しが繰り返されたことで迷路のような建物となり、老朽化や耐震上の問題などから建て替えが望まれ、長年に渡る建て替えへの働きかけの結果、施設の全面改築が実施されました。

全面改築を機に、乳幼児期から高校卒業まで、一貫して安定した生活環境の中で生活できるように乳児院と児童養護施設を同じ敷地内に併設しました。

乳児院から児童養護施設に移ること、す

なわち慣れ親しんだ施設や職員との別れは、施設で育つ子ども達にとって、避けて通ることのできないものでした。しかし、ここでは同じ敷地内で乳児期から自立するまでの間を同じ環境の下で生活することができます。

建物は、中庭を取り囲むように小舎制の児童養護施設、乳児院、管理棟などの独立性の高い施設を長屋を意識した渡り廊下でつなぐことで、共通の生活の場として一体感をもたせています。また、戸建て住宅の生活環境を意識した低層建築とし、明るく清潔感のある環境の中で子どもたちが快適に暮らせるように、手足が触れる部分は天然木材を使用しています。

児童養護施設は、戸建ての小舎制とし、1小舎あたり6人~8人を生活単位とすることで、家庭的養育と個別ケアのできる環境を目指しました。1階は、リビングを中心とした団らんの場で、2階は、読書や勉強、就寝をする場としての使い分けを意識したつくりとなっています。

乳児院は、定員15名となっており、 新生児から2歳児までが4つのユニット に分かれて生活しています。各ユニット に玄関、浴槽、台所が備わっており、太 陽熱エネルギーを利用した暖房補助の設 備を導入しています。

ふれあいセンターおおだかでは、地域 の子育て親子の交流等を促進する子育て 支援事業が行われるほか、茶道などの文 化活動や会議の場として地域の方々に利 用して頂くための多目的なホールを備え ています。

また、親子で一緒に生活訓練できる親子訓練室や自立に向けて1人で生活できるよう準備できる自立支援室のほか、心理相談のできるセラピー室や地域社会の子育て支援を行うためのショートステイ室も設けられています。

平成 24 年には、既存のアパートを改修し、大府市共和町に定員 6 名の自立援助ホームきょうわを開所しました。これで、20 歳までの子どもの自立を支える環境が整いました。





中央有鄰学院の理念

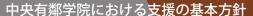
有鄰…必ず仲間がいるよ。

「徳不孤、必有鄰」(論語里仁篇より

中央有鄰学院で生きる子どもたちへ、私たちの願い

私たちは、中央有鄰学院で暮らす子どもたちが、将来、社会の中で、自立し、生きがいを持った生活を送ることができる人になることを目標に、次のような子どもに育ってほしいと願っています。

- 1. からだも心も健康な子ども
- 2. 生命の尊さを知り、人の喜び・悲しみ・痛みの分かる子ども
- 3. 人への思いやりや優しさを持ち、仲間との生活を楽しむ子ども
- 4. 善いこと、悪いことの判断ができ、実践する子ども
- 5. 生活力と学力を身につけた子ども
- 6. やりたいことを発見し、遊びを創造する子ども
- 7. 夢や希望を実現するために、自分を大切にし、困難に立ち向かう 勇気を持った子ども



私たちは子どもへの願いを実現させるため、「児童の権利に関する条約」の精神に則り、子どもの最善の利益を優先し、基本的人権を尊重することを大原則に、次のような基本方針で、子どもたちの育ちの支援を行います。

- 1. 私たちは、子どもと職員との信<mark>頼関係の形成を第一に考え、</mark>子どもと職員との 固い 絆を土台に、支援を行います。
- 2. 私たちは、子どもを肯定的に理解し、長所を発見し伸ばす支援を行います。
- 3. 私たちは、子どもと同じ目線に立ち、気持を理解し、共感することから、支援 を行います。
- 4.私たちは、子どもにとって親との関係の重要さを理解し、親子の絆を大切に、 支援を行います。
- 5. 私たちは、社会に開かれた施設運営を行い、関係機関・地域との密接な連携の下で、支援を行います。
- 6. 私たちは、子どもが安全で安心した生活ができるように生活環境を整備します。
- 7. 私たちは、子どもと真正面から対峙する姿勢を示し、伝えるべきことを伝えていきます。

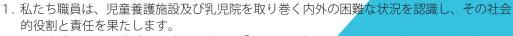






職員倫理網領 7つの主要義務

施設というともすれば閉鎖的になりがちな空間、措置費制度という保障された財政基盤、こうした中に安住・停滞することなく、児童福祉施設のあるべき姿を追求し、7つの願いと7つの基本方針の実現に向け、切磋琢磨すると共に、自らは心身共に強く、健康であるよう努め、以下の責務を果たしていきます。



- 2. 私たち職員は、人権感覚を磨くと共に、「人の心の痛みを<mark>理解し、共感し、分かち合える」</mark> 感性を磨きます。
- 3. 私たち職員は、福祉への理解を深め、専門的知識・技術の研鑽に励みます。積極的に研修に励み、専門性を身に付けます。
- 4. 私たち職員は、職員間の緊密な連携を強め、「認め合い」「励まし合い」「話し合う」相互理解と協力を深め、「共に学び」「共に頑張り」「共に歩む」姿勢を堅持します。
- 5. 私たち職員は、社会に対し、施設の説明責任に基づく情報公開に努め、第三者評価機関による評価を受け、その結果を真摯に受けとめ、それを生かしてまいります。
- 6. 私たち職員は、実践の客観化と総括から学んだことを教訓化し共有化することにより、施設サービスの向上に努めます。
- 7. 私たち職員は、困難を伴う養育活動ゆえ、経験を蓄積し、その蓄積された経験を発展的に継承していきます。





各施設名称

児童養護施設「ゆうりん」

立派な心がけの人は、ひとりぼっちで はなく必ず仲間がいるという意味で す。子どもたちにも、そうあってほし いという思いが込められています。

● 翔(しょう)

子どもたちに、空高くはばたいていっ て欲しいという願いが込められてい ます。

●輝(てる)

子どもたちの未来に、光が広がってほ しいという願いが込められています。

●望(のぞみ)

世の中を広く見渡し、人々の希望とな る様な人になって欲しいという願いが 込められています。

●信(まこと)

うそのない、誠実な人になって欲しい という願いが込められています。

●優(ゆう)

やさしく、すぐれた人になって欲しい という願いが込められています。

●繁(はん)

子どもたち、有鄰学院が賑わって欲し いという願いが込められています。



自立援助ホーム「きょうわ」

地域に根付き、地域の一員として認 められるよう。また、仲間を大切にし、 入居者同士が仲良く生活できるよう にという思いが込められています。

乳児院「ほだか」

0000063006

昔、大高が"火高の里(ほだかのさと)" と言われていた事から、地域の人に見守 られていって欲しいという願いが込めら れています。

4つのユニットには、「りす」「うさぎ」 「くま」「ぞう」と名前が付けられていま す。これらの名前は、ゆうりんの子ども たちの提案によって命名されました。

ふれあいセンターおおだか

地域の人々と共に子育てをしていきたい という願いが込められています。

● 地域交流スペース「光(ひかり)」

訪れる人々の心に、希望の光を灯したい という思いが込められています。

● 自立支援室「実(みのり)」

子どもたちそれぞれが実りのある 人生を切り開いていって欲しいと いう願いが込められています

FIGOR CAROLI

●親子訓練室「康(こう)」

健やかで安らかな親子関係を育ん で欲しいという思いが込められて います。

心理相談室・ショートステイ室「ピノキオ」

旧舎の壁画より命名。登場人物の名前が それぞれ各部屋の名称となっています。

- セラピー室1「ゼペット」
- セラピー室2 「クリケット」
- ショートステイ室「フェアリー」

会議室

●「公(いさお)」

偏ることなく、全体に関わっていきた いという思いが込められています。

●「仁(じん)」

ET LT 思いやりの心をもって、子どもたちと接 していさっこ
ています。 していきたいという思いが込められ

●「正(せい)」

いつも間違いなく、正しい立場で支援 を行っていきたいという思いが込めら れています。

施設案内

1. 学院玄関

各施設(開放廊下経由)や中庭 への玄関です。階段・エレベー ター塔に直結し、多目的トイレ や掲示板を設置しています。

2. 中庭

みんなが集まる中庭ひろばです。 ゆうりんのシンボルツリーや、 小舎ごとの記念樹も植えてあり ます。

管理棟

3. 事務室

学院全体を管理運営する部屋です。来訪者の応対・受付もここで行っています。中庭側のフルサッシュとベランダで学院全体の見通しを確保しています。

4. 食堂「アリス」

誰もが集える憩いの場です。中庭側にはガラス面を多く取り入れた開放的な明るい空間になっています。

5. 調理場

ここで作られた食事が各小舎と乳 児院の各ユニットに運ばれます。 アリスと隣接しており、子どもた ちとコミュニケーションが取りや すいつくりとなっています。

6. 会議室

職員会議や引き継ぎなどが行われる部屋です。小会議室2室を併設しています。(可動間仕切り)

ゆうりん

7. リビング・ダイニングキッチン

コミュニケーションを育む、明るい空間です。食事や団らん、宿題をしたり等、用途は様々です。吹き抜けとなっており、テレビのある畳部屋が隣接しています。

8. 2階ホール

各児童居室やデッキへの出入り口、 ロフトへ上がるはしごなどを備え ています。

9. 児童居室

木製の机とベッドを備えた木のぬくもりあふれる居室です。窓下はガラスブロックとなっており採光性を確保しています。





































10. 地域交流スペース「光」

地域の方が集まる多目的ホールで す。子育て支援事業の他、イベン ト・集会の場として使用されます。

11. 屋外テラス

様々な屋外活動に活用出来るオー プンテラスです。夏はプールが設 置されます。

12. ふれあいセンターエントランス

料理教室等に活用できる調理コー ナー、カーテンで仕切られた授乳 室のほか、ロッカールームも隣接 しています。

13. ステンドグラス「愛」

地域交流センター内、大広間にあ るステンドグラスです。「学院の みんなに愛という光が届きますよ うに」という願いが込められてい ます。

ほだか

14. ユニット

乳児の食事、睡眠、入浴などの生 活ユニットです。木材や畳など自 然素材を活かした優しい空間に なっています。ユニット間の見通 しやつながりに工夫が施されてい ます。

15. 遊戯室

皆が集まる遊戯室です。中庭側は 大きなガラス面となっており、採 光性に優れるだけでなく、ゆうり ん児童(きょうだい)といつでも顔 を合わせられるようになっていま

15. 屋外遊び場

各ユニットの玄関やデッキからつ ながっており、気軽に外に出て遊 ぶことのできる広場です。

きょうわ

17. 建物外観

大府市共和町にあるアパートを改 修し6名の子どもが暮らせる環境 を整えました。

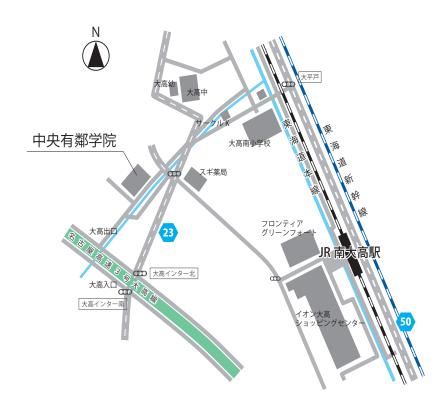
18. リビングダイニング

皆が集まり朝夕の食事をする場所 です。テレビを見たりおしゃべり したり、ゆっくりとくつろげるス









〒 459-8001 名古屋市緑区大高町洞之腰 20-1

児童養護施設 ゆうりん…Tel 052-621-2441 乳児院 ほだか…Tel 052-693-5628 ふれあいセンター おおだか…Tel 052-693-5638 Fax 052-622-5509 E-mail info@yuuringakuin.or.jp URL http://www.yuuringakuin.or.jp

自立援助ホームきょうわ (大府市)…Tel 0562-85-1880 ヘルパーステーションゆうりん (昭和区)…Tel 052-833-9988

社会福祉法人 中央有鄰学院

